

# HU L E C

2024.4

## 1 New Curriculum - Academic English

Academic Writing & Presentation  
Content and English Integrated Learning  
English for Global Communication  
English for Tests

## 2 Student Comments

担当教員からの説明  
受講生の声  
Survey

## 3 Student Activity

Academic English  
受講者が海外へ！

## 4 Special Feature

# 「私にとっての日本語」

留学生4名にインタビュー



Hiroaki University Liberal Arts English Courses

# 1 New Curriculum - Academic English



フレック

弘前大学教養教育英語科目(Hirosaki University Liberal Arts English Courses: HULEC)では、2022年度に1年次科目の新カリキュラムが開始しました。そして、2023度は、2年次以上を対象にAcademic English 4科目が開始しました。

## Academic English

1年次で学修したことを踏まえ、**それらを統合して広く使う力**を磨くために、「Academic Writing & Presentation」「Content and English Integrated Learning」「English for Global Communication」「English for Tests」の4科目の**Academic English**を選択科目として、それぞれ毎年度1コマずつ開講します。クラスは、基本的に、**英語習熟度別クラス編成**(2クラス)です。

前 期	後 期
Academic Writing & Presentation	English for Global Communication
Content and English Integrated Learning : ○○	English for Tests : ○○

「Content and English Integrated Learning : ○○」と「English for Tests : ○○」の「○○」は、学生アンケートの結果を基に決定された以下の内容が、3年ごとに繰り返されます。そのため、2年次から4年次までそれぞれ3回履修することができます。

開講年度	Content and English Integrated Learning	English for Tests
2023/2026/ ...	Psychology	TOEIC
2024/2027/ ...	Cultural Studies	TOEFL
2025/2028/ ...	History	実用英語技能検定



Academic Englishは2年次以上を対象とした科目ですが、単位認定制度 ([HULEC 2023.4](#), p.3 参照) を利用した1年次生も受講することが可能です。2023年度は単位認定制度を利用した25名中3名が受講しました。今後、単位認定制度を利用した1年次生が Academic Englishを受講して、1年次生のうちから英語能力をさらに向上させることを期待しています。

Academic Englishの4科目それぞれに、**授業概要**と**到達目標**が設定されています。

\* 詳しくは[教育推進機構のHP](#)をご覧ください。



## 2 Student Comments

2023年度、具体的にはどのような授業が行われたのでしょうか？受講生の生の声をお聞きください。

### Academic Writing & Presentation

学期の前半は、**アカデミック・ライティング**の具体的なスキル（アウトラインの書き方、文章校正、引用と剽窃など）を学習し、受講生自らの興味に合った、あるいは専門教育と関連付けた研究テーマを選んで、短いながらも**アカデミックなレポート**を書くことを目指しました。後半は、グループ・ワークやピア・レビューを通してそれらの原稿を磨きながら、**発表のスキル**（パワーポイントの構成やデザイン、プレゼンテーションのための言語、話のテクニックなど）を学習しました。最後に、学生は、**レポートをアカデミックに発表することができるようになりました**。

担当教員

Solomon 先生/横内 先生



授業では、HULEC共通教材の「学習ガイドブック」も活用します。



河瀬 綾乃 さん (人文社会科学部)

アカデミックな英語でのWriting、パワーポイントでの資料作り、プレゼンテーションの仕方を学び、それに倣い学生それぞれ興味のある学術分野のトピックについての課題を作成しました。ピア・エディティングの活動や先生の丁寧な指導を受けられたことで、トピックについて再考する機会になり理解を深めることができたのと同時に、アカデミックで実践的なWritingやプレゼンテーションの知識を得ることができました。**何より自分のタスクを試行錯誤してゆく過程で、英語を使うことに対して自信を持つことができました**。英語を使うことに億劫になっていましたが、**授業内で繰り返しのインプット・アウトプットがあったからこそ、英語が心や気持ちを伝えるためのツールになってきているのだなと実感しました**。



聴衆が理解しやすいPowerPointを作成し、ジェスチャーを交えてプレゼンテーションをする河瀬さん

(河瀬さんは、この直後に留学しました。その様子はp. 7をご覧ください。)

# Content and English Integrated Learning: Psychology

学生アンケートにおいて、**CLIL (クリル)** の授業で学びたい内容ダントツ1位が **Psychology** でした。HULEC教師陣の中には、心理学の研究者が2名おり、この授業はその2名が担当しました。**テキストは担当教員のお手製です。**テキストはPDFで配布され、学生はiPadでメモを取りながら学習することができました。また、**予習・復習には学習単位に関するYouTubeも取り入れました。**学生は、**心理学の理論を学び、評価し、そして自らの理論を展開する、それを英語で成し遂げました。**

担当教員

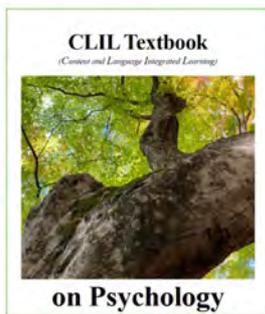
Birdsell 先生/立田 先生



## CLIL

= Content and Language Integrated Learning

教科科目やテーマの内容 (Content) の学習と外国語 (Language) の学習を組み合わせた (Integrated) 学習 (Learning) の総称で、日本語で「内容言語統合型学習」と呼ばれます。



Brian J Birdsell Natasko Tatsuta  
Hirotsuki University

[テキスト](#)

Paul Ekman, on the other hand, is known for his work on facial expressions of emotion. He found that certain facial expressions, such as a **genui**ne smile or a look of disgust, are universal and can be easily recognized by people from different cultures. (Look at Figure 6 can you describe the emotions simply from the facial expressions?)



Figure 6: Facial expressions for different emotions

Emotionの理論は、テキスト作成者である Birdsell先生の顔の表情で学習 (テキスト p. 28)



Motivationの単元のまとめの会話文 (テキスト p. 25)  
ChatGPTで作成



池田 洸太郎さん (理工学部)

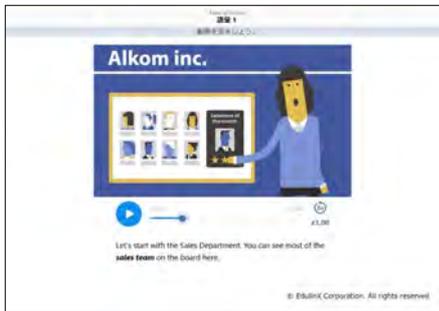
授業では毎時間、その日の授業のテーマについて英語でまとめ、自分の意見を含めて発表する時間がありました。また、1つの単元が終わるごとに、ポスター発表やプレゼンテーションがあり、自分が興味を持ったテーマについて図などを用いてまとめました。これらの英語でまとめる作業には、**テキストを暗記することではなく、理解することが必要**であり、またこれらを英語で行うのでハードルは高かったように思います。しかしこれらのおかげで、**英語で文章を聞き手が理解できるようにまとめる力は確実にのびた**と思っています。また、**テキストには、単元ごとに単元のキーワードが出てくる会話文** (右上) があり、単元の復習になると同時に、**学んだことをコミュニケーションやディベートなどで実際に使う時の表現を具体的に学ぶことが**できました。

# English for Tests: TOEIC

学生にアンケートでPsychologyに続いて**人気No.2はTest**でした。2023年度は、テストの研究者である横内先生が担当しました。**eラーニングシステム**を使用して、**学生が授業内外でどのようなペースで学習を進めているかを観察し、自ら学習する態度を養成**することを目指しました。そして学生の回答を観察することで、誤りの多い項目を克服し、難易度の高い問題に正解できるように、**eラーニング教材の内容に似た発展型の問題を用意し、丁寧に解説**を行いました。受講生はTOEICの受験経験がなかったため、受験時の注意点を説明し、TOEIC独特の世界観を面白おかしく説明しながら、TOEICの文脈で出てくる語彙、表現、そして文章の展開について解説しました。また、ときには他のテスト（TOEFL、英検等）を受験するために覚えておくべき単語とTOEICで頻出する単語を明示して、**TOEICだけでなく他のテストを受験する上で役に立つ情報を共有**できるよう心がけました。

担当教員

横内先生



授業で活用したeラーニング教材の一例



WANG YUXUA（オウ ウセン）さん

（中国からの交換留学生）

将来の夢は日本でOLになること

**留学生**として、私は今学期、TOEIC試験対策の英語コースを受講しました。この学習期間を通じて、いくつかの深い気づきを得ました。

まず第一に、**TOEIC試験が私の留学生活においてどれほど重要かを認識**しました。TOEIC試験は広く認められた英語能力評価ツールであり、将来の学習やキャリアの発展にとって極めて重要です。このコースを通じて、TOEIC試験の構造、内容、試験対策についてより理解することができ、試験の挑戦により適切に対処するのに役立ちます。

次に、英語の重要性を深く実感しました。英語は国際的な共通言語として、世界各地で幅広い分野で広く使用されています。TOEIC試験関連の知識を学ぶことで、英語のリスニング、スピーキング、リーディング、ライティング能力を向上させるだけでなく、世界中の人々とのコミュニケーション能力も高めました。

最後に、このコースを通じて**自分の英語学習上の不足に気づかされ、より一層努力することを決意**しました。今後の学習では、授業内外での練習により集中し、自分の英語力を向上させ、将来の試験や学業の基盤をしっかりと築いていきます。

まとめると、**この期間のTOEIC英語コースの学習は私に大きな利益をもたらしました**。英語能力が向上するだけでなく、将来の学習やキャリアの発展に対する自信と決意も強めました。私は努力を続け、自分の留学の夢を実現するために精進していきます。

# English for Global Communication

この科目は、世界の多様な言語（World Englishes）に触れることで、さまざまことに気づき、そこから英語能力を向上させることを目指しました。授業では、留学生との交流「HULEC CUP」を3回取り入れました。そして、その活動を通して学んだローカルな問題・グローバルな問題をディスカッションし、ディベートに発展させました。学期末には、ディベートでの自らがとった立場からエッセイにまとめ、それについて英語でプレゼンテーションすることができるようになりました。

担当教員

Birdsell 先生/立田 先生



佐藤 礼 さん（人文社会科学部）

授業の中で特に印象に残っているのが実際に留学生の方々と英語でお互いの国の文化を紹介するというワークショップをしたHULEC CUPです。

言語面において自分達の国の文化を紹介するにあたり、ニュアンスまで伝えるにはどのような表現をすれば良いのか考えたり、今まで学校の授業では触れる機会がなかった様々なアクセントを耳にする事ができたりなど英語の奥深さを改めて知る事ができました。

また文化面においても、自分達が当たり前と感じている文化でも留学生の方々から見れば新鮮なものであったり、一方で国によって似ている文化があったりと様々な学びが得られました。



## HULEC CUP

インドネシア、インド、スリランカ、アメリカ（メキシコルーツ）出身の4名の留学生との交流

### HULEC CUP 1. Get to know international students and introduce them

グループ対抗で、留学生のことを正しく上手に紹介

### HULEC CUP 2. Japanese culture workshop for international students

日本の食事マナー、GW、文化（伝統色・塗り絵）、芸術（書道・高校の作品）、ゲーム（将棋・けん玉・あやとり・コマ回し）を受講生が留学生に紹介

### HULEC CUP 3. Culture workshop by international students

4名の留学生が、それぞれの母国について受講生に紹介



書道を教える芸術チーム



ゲームをしながら箸の使い方を教える日本の食事マナーチーム

# Survey on HULEC CUP

学期末にHULECに関する調査をしました。その結果の一部を紹介します。

## HULEC CUPを通して、

■ 全くそう思わない ■ あまりそう思わない ■ どちらとも言えない ■ ややそう思う ■ とてもそう思う

① 英語コミュニケーション能力が向上したと感じる。



② 英語でコミュニケーションすることに自信がついたと感じる。



③ 英語学習へのモチベーションが向上したと感じる。



④ 海外への旅行や留学に興味を持つようになった。



⑤ 自分は海外と繋がっていると感じるようになった。



## HULEC CUP全体に関して、コメント、感想、要望など

- いろんな国の人の話が聞けて楽しかった。アフリカやヨーロッパの国などの話も聞いてみたかった。
- 普通に生活しているとできない体験だったなと思いました。様々な国の人と交流できたのはこの授業ならではのと思います。もっと英語頑張りたいです。
- 良い経験ができたと思います。要望として、異なる発音を知りたいので、ヨーロッパなどの留学生とも交流してみたいです。
- 全体的にとっても刺激的でモチベにつながったので非常に良かったです。今まで英語のリスニングとスピーキングから逃げてきたので今後は積極的に英語に触れられるようにしたいなと思いました。
- 英語は熱意があれば伝わるということが分かりました。恥ずかしがらずに英語を話せるようになるまでは熱意のある英語を貰って行きます！！
- すごい楽しかったのでまた留学生と一緒に授業を受けたいです！ありがとうございました！
- HULEC CUPで留学生の皆さんと交流することで、自分の身の回りの文化に新しく気付いたり、海外の文化を知ることができてとても勉強になりました。もう少し留学生の皆さんと授業で話せる機会が欲しかったです。
- 招待した留学生の国を散らしてくれたことにより、様々な国について触れることが出来たのが楽しかったです。
- **I learned a lot of things in HULEC CUP.** In the class, English levels are different, but **I believe that most students can enjoy.** And I think it is better if international students and Japanese students can do together. I guess we can communicate more deeply.
- 留学生と会話する時間をぜひもっと増やして（長くして）ください！

# ③ Student Activity



Academic English受講者の中には、留学や研修、または個人的な旅行で受講後に海外に飛び立った学生がいます。そこでは、Academic Englishで学んだことがどのように生かされたのでしょうか？HULECでは、「国際人として、あらゆる文化的・言語的背景をもつ人々とコミュニケーションするための英語能力を身につけること」を目標としています（[HULEC 2023.4](#), p.1 参照）。今後も、Academic Englishを受講し、英語でコミュニケーションする能力と自信をつけて、国際人として海外に飛び立っていく学生が増えることを期待しています。



## Hawaii, U.S.A.

河瀬 綾乃 さん 人文社会科学部 留学 2023年8月～2024年5月

Aloha!!

私はハワイにあるコミュニティ・カレッジの1つであるLeeward Community College（以下LCC）に2セメスター（Fall/Spring Semester）の交換留学生として語学留学をしています。ハワイという絶好のロケーションで日々を満喫しています。中でもやはりビーチは格別です。有名なWaikikiビーチをはじめオアフ島を取り囲むビーチは、雄大で美しく、天気や風、時間などの変化で様々な表情を見せます。疲労がたまった時には1人でどこかのビーチに出向き、ただ座って海を眺め、パワーを受け取ったり、ホストファミリーと一緒に何時間もスイミングをしたりします。ハワイ!! バカンス!という一方で、もちろん課題や予習復習に追われて生活しています。Spring Semesterにあたる現在はExchange/International Students向けのESLクラスを受講しながら、ネイティブの世界に飛び込んでHawaiian Studiesという正規授業も受講しています。ESLのクラスでは、MLA Formatに基づいてエッセイやレポートを執筆し、スライドを用意しプレゼンテーションを行います。正に、Academic Writing & Presentationで学び実践してきた内容です。怖いものではありません。特に、目的にあった参考文献の探し方、引用の仕方、首尾一貫したレポートを構成するためのブレインストーミング、パラフレーズの仕方と効果的なボキャブラリーの使用方法などについてAcademic Writing & Presentationで学んだスキルがよく役立っていると感じます。これらを英語に満ちた課題や日常生活に昇華する中で、楽しさ・難しさを含めた英語の新たな魅力を目にしています。壁にぶつかることばかりですが、ワクワクは止まりません!



## Hawaii, U.S.A. & Taiwan

土屋 歩加 さん 農学生命科学部 弘前市主催の研修 & 旅行 2024年3月

Aloha!! 私は3月初めに、弘前市主催の研修でハワイのホノルルへ行ってきました!現地の子ども達に折り紙で金魚ねぶたの作り方を教えたり、ホノルルフェスティバルに参加しハワイの人たちに英語を使って弘前の地酒である豊盃と弘前ねぶたをPRしてきました。ハワイでは日本語もたくさん見かけましたが、English for Global Communicationの授業で楽しく英語でコミュニケーションをとるスキルを学んだので、自分ではできるだけ英語を使ってコミュニケーションをとれるように心がけました。特にHULEC CUPでのWorkshopで日本の文化を英語で留学生に教えたことは、今回の研修で弘前のことをPRするのに大変役立ちました。また、今回、大学のサークル (HULEC 2023.4, p.5 参照) で仲良くなって2月に帰国していたハワイの友達とも再会し、一緒に活動できたこともとても嬉しかったです。

3月中旬には、サークルで友達になった台湾からの留学生に会いに、台湾にも行きました。台湾では、友達と共に過ごし、旅行ガイドには載っていない発見があり、台湾をいろいろな観点から感じることができました。

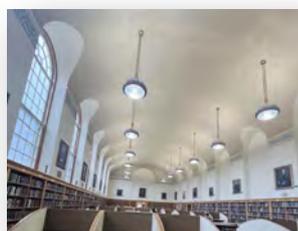
今回得た経験や学びを今後の英語での活動、特に日本を海外に発信する活動に活かしていきたいです。



## Maine, U.S.A.

中川 明香 さん 人文社会科学部 留学 2024年3月～2024年12月

私はアメリカ東部・メイン州にあるThe University of Maine (以下UMaine) に交換留学生として留学しています。私はこのUMaineでfull semester (spring/ fall)、およそ10ヶ月間を過ごします。大学のあるメイン州のOronoは小さな街で、落ち着いた雰囲気のあるとても静かな地域です。自然が豊かで森の中に大学や家がある、というような印象です。私は大学構内にあるYork Hallという寮に滞在しており、勉強やアクティビティに集中できる場所で生活しています。寮の周りはもちろん、Oronoではいつでも野生のリリスと出会うことができます。私がUMaineに到着した3月半ば頃の気温は弘前と同じくらいでしたが雪はありませんでした。暑さと人混みが苦手な私にとってUMaineはとても過ごしやすい環境です。そんなUMaineでの留学は、前半の学期 (spring) はIntensive English Institute (以下IEI) で主に英語を学び、後半の学期 (fall) では正規授業を受講します。IEIではReadingやWriting、Grammar、Communicationなどの授業を受講して、アカデミックな英語を習得していきます。授業の内容はEnglish for Global Communicationの授業で学んできたことを多く含んでいます。また、英語で授業を理解したり発言するという点がなかなか日本ではできないことなので慣れる必要がありますが、私はEnglish for Global Communicationの授業の中で英語で自分の意見をクリティカルに表現することを学んできました。English for Global Communicationでは英語でのプレゼンテーションやディベート、ディスカッションにも挑戦しました。英語で説得力のある主張をする方法を知っていることやその経験があることは留学に来て英語だけの環境に入ったときに武器になります。もちろん授業についていくことは簡単ではありませんが、留学前に弘前大学の授業で得た経験はUMaineでも存分に生きています。



# New Zealand

農学生命科学部 国際園芸農学科の海外研修 2024年3月

## 草場 野乃花 さん

海外研修のために英語力を向上させたいと思い、English for Global Communicationの授業を受けました。授業では留学生と実際に話すことができたのでとても良い経験になりました。授業に参加してくれた留学生の方々の出身国がそれぞれ異なっていたので、さまざまな国の英語に触れることができたので良かったです。海外研修でニュージーランドに行った際には、自分から英語で海外の人に話しかけることができました。自分の英語が伝わったことを実感でき、自信につながりました。

## 坂本 照英 さん

前期のCLILの授業は、英語漬けだったので、英語で考えてそのまま発言する訓練となり、英語への自信ができました。後期のEnglish for Global Communicationの授業では、様々な留学生達と交流でき、英会話は恥ずかしがらずに目を見て積極的に話しかけると、部分的に文法が壊滅していたとしても英語でコミュニケーションが取れると分かりました。実際にニュージーランドに研修に行った時も、英語で質問する時は恐れず目を見て話す事が出来、また、相手にも自分の質問の意図が伝わって、英語は熱意だ、と実感できました。



## 齊藤 高穂 さん

海外研修でニュージーランドを訪れて、日本の外で英語を話す・聞くという貴重な体験をしました。今回の研修では農家の方に話を聞く機会があり、その特有の訛りで理解することに少し苦労しましたが、ここで英語の授業で学んだことが活かされたと感じます。English for Global Communication の授業でのさまざまな国の留学生と交流する機会のおかげで耳が柔軟になったことが効果的でした。言語を学ぶだけではわからないことも多々あると思うので、学生生活の中で海外に渡航したことは今後の人生のためにも良い経験になると思います。



左から、齊藤さん、坂本さん、草場さん

# 4 Special Feature

## 「私にとっての日本語」

今回のSpecial Featureでは、現在弘前大学に在籍する留学生4名に、「自分にとっての日本語とは？」というテーマでインタビューしてきました。全て英語でチャレンジしました！インタビュアーは富田航大（医学部1年\* 単位認定制度を利用してAcademic Englishを受講）と葛西藍（人文社会科学部2年）です。



今回のインタビューにご協力いただいた留学生は、HULEC CUP (p. 5)に参加してくださった4名の留学生です。

### Questions:

- Q1. What brought you to Hirosaki University (Japan)?
- Q2. What is the most difficult thing about learning other languages for you?
- Q3. What do you want to do after you graduate from university?
- Q4. What kind of advice would you provide other international students who plan to visit Japan in the future?

### 【George】 U.S.A.

- A1. I am a Japanese language & culture major, so I came to Japan to practice my Japanese.
- A2. I am good at mimicry, and pronunciation of Spanish (\*his native language) and Spanish sounds are similar to Japanese, so my Japanese pronunciation has improved. But it is difficult to fully understand Japanese.
- A3. I want to be a translator for Japanese people who visit the United States. I will never forget the hospitality I received from my host mother when I was a homesteader in Japan. I would like to help travelers with the same spirit of hospitality.
- A4. Don't be shy at asking for help. Many problems arise from miscommunication, so find someone you can trust and tell them what you're struggling with.

Georgeさんが得意なmimicry（模倣）とは、一度聞いた言葉をすぐに繰り返すことより、即座のリスニングスキルと発話スキルが鍛えられる学習方法だそうです。Georgeさんとインドで英語の先生をされているPriyankaさんは、言語学習方法にとっても詳しく、他にも、**Extensive Reading**（多読、English Communication Cでも取り組んでいる本を沢山読む活動）をお勧めしてくれました。

### 【Priyanka】 India

- A1. To observe and learn teaching methods used in Japanese schools to teach students English.
- A2. Understanding the Japanese grammatical forms of "wa", "ni", "ga" and so on.
- A3. I am mostly interested in elementary English education because it is where children start to acquire a second language. After researching this subject more, I'd like to work on teaching materials. I am meeting some supervisors and attending presentations/seminars of how Japanese English teachers teach English.
- A4. Enjoy communicating with many people.





### 【Yusrin】 Indonesia

**A1.** To study engineering..

**A2.** (about Kanji) In Indonesia we occasionally use Chinese which uses Kanji but Chinese characters are now simpler... and pronunciation is different. I can guess character's meaning, though. Also, I struggle with grammatical things like "wa", "ni", "ga".

**A3.** I am not sure.

**A4.** You are still young enough to do what you want. It is ok to fail or make mistakes, so just try now. You will be more worried about making mistakes in the future.

### 【Yushani】 Sri Lanka

**A1.** I am a researcher in Sri Lanka, and I want to get a doctor's degree.

**A2.** Grammar is mostly same as my language, so what I have to learn is vocabulary and Kanji. Kanji is very difficult.

**A3.** Go back to home university and restart my lecturer career. I think I can support Japanese students there.

**A4.** Learn spoken Japanese before you come to Japan. And you should learn about cultural differences in behavior which may be different from your country's.

「私にとっての日本語」は、今の留学の目的を果たすための手段であったり、将来の夢を叶えるための目的であったり、理由は様々でした。4人が共通して強調していたことは、「(現地の)人とのコミュニケーションは大事」ということ。Georgeさんのように来日前に日本専攻で日本語を勉強してきていても、Yushaniさんのようにほとんど日本語を知らないままに来日しても、実際に日本人とのコミュニケーションから学ぶことは多いそうです。AIの発達が凄まじい時代でも、人との関わりの重要性を改めて感じました。

インタビューは終止和やかな雰囲気で行われました。今回インタビューを快諾して下さった皆さん、ご協力いただき本当にありがとうございました！弘前大学での留学を存分に楽しんでください。

日本人学生が英語を学ぶ時と同じように、留学生の皆さんにも**多言語を一から学んでいく上で多くの苦労がある**のですね。日本語は、ひらがな・カタカナ・漢字を組み合わせますから、ご苦労が多いようです。

日本語の助詞「は」「が」「に」が難しいようですが、それは、私たち英語学習者が、英語の冠詞“the”と“a”の違いを、**システム的には知っていてもいざ使う時に戸惑うことがあるのと似ている**と思いました。

また、言語習得には、**母語の影響**もあって、Yusrinさんは中国語から日本語の漢字の意味を少しは予測できるため、日本での生活はそれほど苦労していないそうです（日本語をほとんど勉強せずに来日したYushaniさんは、出かける時はYusrinさんをとても頼りにしているとか・・・）。



# Back number



[HULEC 2023.4](#)



Hirosaki University Liberal Arts English Courses



フレック

© 2023-2024 TAKEYAMA Ayane

竹山 綾音 さん（農学生命科学部）

発行：弘前大学 教育推進機構 教養教育開発実践センター 英語部門

E-mail : [hulec@hirosaki-u.ac.jp](mailto:hulec@hirosaki-u.ac.jp)

HP：教養教育に関する情報 <https://liberal-arts.hirosaki-u.ac.jp/>

Webご意見箱：HULECに関するご意見 <https://forms.office.com/r/Ak8pznEGgV>



※ 本誌における学生の所属学部・学年と担当教員は、2024年3月末時点の情報です。